

那 覇 市 教 育 委 員 会 会 議 録

令和元年度（2019年度）第6回（定例会）

署名人 平良 浩

教育長 田端 一正

開催日時 令和元年（2019年）6月25日（火）

開会 午後3時00分

閉会 午後3時50分

開催場所 那覇市役所9階 901会議室

出席者

〔教育長・教育委員〕

田端一正教育長、本仲範男委員、比嘉佳代委員、喜屋武裕江委員、平良浩委員

〔事務局職員〕

【生涯学習部】山内健部長、田端睦子副部長

（総務課）仲程直毅課長、平良美夏副参事、平安真希子主査、奥浜隼人主査、平良俊弥主査

【学校教育部】奥間朝順部長、森田浩次副部長

【市民文化部】比嘉世顕部長

（文化財課）末吉正睦課長、内間靖副参事、国吉裕子主幹、新屋佳代主幹、比嘉立広主任学芸員

議事日程

- 1 報告1 令和元年度教育行政マネジメントシステムに係るマネジメント一覧表について【総務課】
- 2 報告2 第2次教育振興基本計画に係る組織目標について（文化財課関係分）【文化財課】
- 3 議案第11号 那覇市教育事務点検評価委員会への諮問について【総務課】

会議録作成（総務課）平安真希子主査

田端教育長 令和元年度第6回教育委員会会議（定例会）を開催いたします。本日の会議録署名は平良委員にお願いしたいと思います。本日の議事日程は報告が2つ、議案が1つということになります。それでは、報告1「令和元年度教育行政マネジメントシステムに係るマネジメント一覧表について」の説明をお願いいたします。山内生涯学習部長、お願いします。

山内部長 報告1でございます。「令和元年度教育行政マネジメントシステムに係るマネジメント一覧表について」、令和元年度教育行政マネジメントシステムに係るマネジメント一覧表について、別紙のとおり報告する。令和元年6月25日提出。教育長 田端一正。報告理由 令和元年度において実施するマネジメントシステムについて、那覇市教育行政マネジメントシステム要綱第6条の規定に基づき、その一覧表を報告する。詳細は総務課から説明いたします。

田端教育長 仲程総務課長、お願いします。

仲程課長 それでは説明に入ります。改めましてマネジメントシステムの目的について、簡単にご説明をいたします。那覇市教育振興基本計画に掲げる具体的な施策やその他、教育行政に係る重要施策等を適切に執行管理し、教育行政の円滑な運営と主要事業の成果の向上を計ることを目的に実施するものでございます。具体的には、当該年度における特に重要な事業を抽出し、その事業について、年度目標などを定めてPDCAサイクルにて進捗管理を行っていくという仕組みでございます。それでは、今回の報告の内容について、ご説明いたします。

1ページをご覧ください。令和元年度マネジメント所属別集計表になります。今回、令和元年度は生涯学習部と学校教育部と合わせまして、教育長マネジメントが2本、部長マネジメントが10本、課長マネジメントが19本、合計31本の事業をマネジメントいたします。続きまして、2ページ目をご覧ください。年度スケジュールになりますけれども、①の各課で主要事業、マネジメント事業候補一覧表を作成する①から④の教育長・部長の年度当初面談及びマネジメントシートの確認・修正については、修正してございまして、本日、⑤のマネジメント事務事業の教育委員会への報告が終わりましたら、各課へ通知を送付する予定になっております。今後は⑥の9月中旬から10月中旬にかけて中間評価を行いまして、⑨の12月中旬から1月中旬にかけての年間評価を経て、3月に⑩のマネジメント実施結果を教育委員会会議に報告させていただきます。その後、ホームページにて広く公表して行く予定でございます。関連いたしまして、補足いたしますけれども、文化財課関係分につきましては、市長部局で実施している目標管理の仕組みにおいて、進捗管理しているところがございますので、後ほど、報告2で説明がございまして、それから、幼稚園関係分につきましては、今年度、全ての幼稚園は認定こども園に移行されましたので、このマネジメントの対象から外れるということとなります。それでは、今年度のマネ

マネジメント事業の具体的な内容につきましては、新規事業等を中心に、担当の奥浜主査から説明をいたします。その前に、施策体系表を添付してございますので、あわせてご覧になってください。よろしくお願いします。

田端教育長 奥浜主査、お願いします。

奥浜主査 今年度、新規のマネジメント事業が6件ございますので、この6件について説明をいたします。それでは、8ページをご覧ください。課長マネジメント、ナンバー3、地域連携事業におけるNPO、大学、企業等との連携強化をご覧ください。まず、この表の見方ですが、一番右側のほうに備考欄がございます。新規と継続がございますが、この3番の事業は新規のマネジメント事業ということで、新規と表示しております。それ以外については、継続ということで書いてありますが、前年度から引き続き継続してマネジメントしている事業ということでございます。この3番の事業について、目的・内容としましては、NPO、大学、企業、小学校校区まちづくり協議会と連携を深め、学校を中心とした地域づくりに寄与するという目的でございます。年度目標としましては、①公民館がNPO、大学、企業等と連携して実施している事業に、小学校校区まちづくり協議会や地域の自治会等1団体以上の協力を目標とする。②地域イベント（実行委員会等）にNPO、大学、企業等1団体以上の協力を目標とする、ということでございます。その下のナンバー4、公民館講座事業（乳幼児学級、家庭教育学級、親子ふれあい教室）をご覧ください。今年度は、家庭教育の向上に重点を置くため、公民館講座の中から乳幼児学級、家庭教育学級、親子ふれあい教室に焦点を充ててマネジメントをしていきます。目的・内容としましては、公民館主催による乳幼児学級、家庭教育学級、親子ふれあい教室など親子で楽しみ、学び合える学習プログラムを提供して、より良い親子関係づくりに寄与するとなっております。年度目標としましては、①より多くの市民に家庭教育の大切さを知ってもらうために、カリキュラムの設定や広報を工夫し、前年度よりも受講者を増やす。②受講生へのアンケートによる満足度98%を達成するとなっております。その下のナンバー5、図書館運営事業の指標と目標値の設定及び評価をご覧ください。目的・内容としましては、図書館運営事業の指標と目標値を設定し評価することにより、市民への質の高い情報提供を目指して、図書館業務の充実を図るとなっております。直接、市民に対応するレファレンス業務とおはなし会に力を入れて取り組んで行きたいということであります。年度目標としては、①レファレンス件数1,100件、②おはなし会参加者のアンケートによる満足度：5点満点中4.5点以上。この2つを年度目標としております。9ページをお願いします。9ページのナンバー9、望ましい部活動等の指導の在り方の検討をご覧ください。目的・内容としましては、部活動等における望ましい指導の在り方について検討するとなっております。年度目標としましては、①部活動主任研修会で、現状と課題について把握し、「運動部活動の在り方に関する方針」の周

知を行う。②県の方針を受け、「那覇市運動部活動の在り方に関する方針」の素案を作成し、策定に向け調整会議を行う。③各学校の「部活動方針」策定のフォローマップを行う。④市民スポーツ課と連携し、指導者研修会の充実に取り組むとなっております。10ページをお願いします。ナンバー10、県費負担教職員の適切な労務管理の実施をご覧ください。目的・内容としましては、那覇市学校職員出退勤システムを活用して、各小中学校内に勤務する県費本務職員及び県費臨時的任用職員の出退勤を把握し、健康管理につなげる。少なくとも週1回の定時退庁を実施する。また、時間外勤務（平日16時45分以降の在校時間＋休日の在校時間）が月40時間を超える教員については、健康状態の注視や業務相談の声かけなど適切な労務管理を学校長へ依頼するとなっております。ちなみに、那覇市学校職員出退勤システムというのは、株式会社イオンさんからご提供いただいたWAONカードをICカードとして利用しています。各小中学校にカードリーダーが付いたパソコンがあり、ICカードをタッチして出退勤の時刻を打刻しています。労務管理の流れとしましては、毎月10日までに各学校から前月分の出退勤記録データを教育委員会にメールで提出をしてもらいまして、学校教育課で週40時間以上残業している職員を抽出します。該当教員の健康管理に注視してもらうため、学校長に通知し情報共有を図っております。年度目標としましては、①打刻システム実施要領の遵守について各学校へ依頼し、長時間勤務者を把握して適切な対策につなげる。②長時間勤務者を定時に退勤できる職場環境をつくるため、ノー残業デー（毎週水曜日）の定着を図るとなっております。ナンバー11、那覇市教育課程研究協議会をご覧ください。目的・内容としましては、新学習指導要領の趣旨の実現に向け、具体的な授業の工夫・改善について、授業公開及び授業研究会を実施し、モデルとなる学習活動を示すことで、周知を図るとなっております。年度目標としましては、「目指す資質・能力の育成のための指導と評価の一体化を意識した授業改善について」のテーマのもと、各研究部会で実践研究を行い、その成果と課題を教育課程研究協議会にて説明するとなっております。以上で説明を終わります。よろしくお願いします。

田端教育長 ありがとうございました。この件について、ご意見、ご質問がありましたらお願いしたいと思います。どうぞ、本仲委員。

本仲委員 お願いします。ナンバー9の望ましい部活動等の指導の在り方の検討について、中学校だけではなく、小学校の運動部活動についてもこの指針のとおり出来るように、どうぞ、よろしくお願ひしたいと思います。

田端教育長 また、文化部活動もこういう指針ができるようにお願いしたいなというふうに思います。ほかにありますでしょうか。どうぞ、平良委員。

平良委員 8ページのナンバー4、乳幼児学級、家庭教育学級、親子ふれあい教室という形になっているんですけれども。確か2、3年前だと思いますが、那覇市の安謝地域の施

設で妊産婦が出産から出産後の子育てまで、教室のような関わりのテレビ番組を見たことがあるんですけども、そういう意味で、これから出産する妊産婦に向けた教室を行う方向性はあるんでしょうか。

田端教育長 どうぞ、山内生涯学習部長。

山内部長 乳幼児学級の前、新しく親になるための学級ということになると思うんですけども。以前は公民館でもそういう事業がありました。ただ、最近はこちらかいうと、実際に子育てをなさっている方、乳幼児や思春期の子ども達の親御さん達の悩みなどに応える事業がメインになってきています。今、平良委員がおっしゃったのは、健康部や福祉部で行っている事業だと思うんですけども、公民館としてこれらをやらないというわけではなくて、それぞれの事業が終わった後にアンケートを取りますので、ニーズがあれば企画します。このような家庭教育学級というのは、公民館だけではなくて全庁、関係課も行っています。

田端教育長 よろしいでしょうか。是非、関係課、各部との連携を取りながら進めていただきたいというふうに思っています。仲程総務課長、どうぞ。

仲程課長 補足いたしますけれども、館としては課題とか、いわゆる問題点ということで、乳幼児学級は孤立しがちな若い母親を想定して、仲間づくりや支援の場、子育て担当部局との連携にも力を入れていきたいという課題を持っていますので、そこら辺も通じているかなというふうに考えます。

田端教育長 よろしいでしょうか。ありがとうございます。どうぞ、比嘉委員。

比嘉委員 今の件で補足というか。逆に高齢の第一子のお母さん達も孤立するという現象が出ているので、お母さんを限定するのではなくて、その不安を抱えるお母さんという形で、もっと広く間口をもったら良いのかなと、今、聞いて思いましたので、ご検討ください。高齢で初産のお母さんというのは、もっと行き場がなくて困られている方が意外と増えています。適齢期層が意外と困っていないというか。

山内部長 昔はおじいちゃん、おばあちゃんが地域で一緒に子育てしていたと思いますが、比嘉委員がおっしゃったように今は孤立する場合がありますので、表現を幅広くという形ですね。

田端教育長 ほかにないでしょうか。喜屋武委員、どうぞ。

喜屋武委員 同じように4番なんですけれども。昨年度まで県が主導していました家庭教育推進事業との連携とか、今年度は市町村に主導権がおりるということで、県としては動いていると思うんですけど、そことの絡みとか、在り方を引き継いでいるものとかがあれば教えていただければと思います。

田端教育長 山内生涯学習部長、どうぞ。

山内部長 今、喜屋武委員がおっしゃったのは、家一なれ一運動のことですね。県の方で指導者を養成して、要望があればこの方々へ声掛けし、講師として招聘するという形にな

りますが、公民館講座事業でそういう方を講師として招くことは出来ると思うんですけれども、実際活用しているのかわかりません。保健師や幼児教育の専門家など、そういう方々を講師に招いているケースのほうが多いと思いますね。

喜屋武委員 それを想定して連携しているというわけでは今のところはないということですか。

山内部長 事業としてはないと思います。ただ、人材を活用することはあると思います。家一なれ一運動は、PTAや団体に対して、こういう方々がありますよ、こういうプログラムがありますよと紹介して、仲介するような事業になっていると思います。

喜屋武委員 プロの学び合いプログラムという形が趣旨としては近いなと思いました。家庭教育の大切さと自分が出来ることは何なのかという、一方通行の専門家派遣というよりも、お互いの学び合いというところで、同じ悩みのもと、同じ共通の環境の人達と学び合うというプログラムだったりするので、関連があるのかなということと、今年度より市町村におりてくるという話だったので、関連性はあるのかなと思って聞かせていただきました。

山内部長 趣旨は一緒ですね。公民館講座事業は、主に公民館で受講生を募集して、例えば、地域の学校の連携室に行って、その地域の方々、PTAを中心に呼びかけてやるというものもありますし、いろいろパターンがあります。家一なれ一運動は、PTAの方へ公民館の職員が紹介して、どうですかという話をして、そういうプログラムを組んでもらう。また、逆に公民館もこの方々と一緒にプログラムを開発するような話も出てございますけれども。

喜屋武委員 分かりました。ありがとうございます。

田端教育長 是非とも連携を取ってお願いしたいなと思っております。ほかにありますでしょうか。本仲委員、どうぞ。

本仲委員 10ページの10番、県費負担教職員の適切な労務管理の実施ということについて、この目的・内容の中で、少なくとも週1回の定時退庁を実施するということで、具体的には、毎週水曜日のノー残業デーを設定すると。学校現場では初めて聞く言葉ではないですよ。私も現職の時、ノー残業デーというのを打ち出したが、スローガンだけが独り歩きして、先生方の業務内容はエンドレスなものですから、具体的に実効性が薄かったなという感じがするもんだから、何か、リーダーシップ的な取り組みは考えておられますか。

田端教育長 奥間学校教育部長、どうぞ。

奥間部長 校長会の中でも私の方からお話をしました。それと、夏休みに那覇市が調査をかけます。その中で定着しつつあって、今、中学校においても水曜日のノー残業デーをやっている中学校もだいぶ増えてきているという現状も耳にしています。徐々に増えていくのかなという感じとしてはあります。特にここに書いてある40時間以上となっていますが、実はもう100時間超えた先生方もいますので、そういう先生方に

は、是非、校長先生のほうから声掛けをしてという形ですね。教職員グループの方からお願いをして、今、取り組んでいる最中です。この取り組みを続けていけば、継続していければ良いのかなと思います。

本仲委員 是非、この実施している学校を挙げたい。どここの学校は実施していると。そして、どういう取り組みでやっているよということと、取り組みのやり方も紹介できるような方向に持っていければ良いなということが一点。また、お伺いしたいのは、文部科学省も教職員の夏休みのまとめ取りというのを検討しているというようなことを聞いているんですが、どうなっていますかね。今、動きとしては。

田端教育長 奥間学校教育部長、どうぞ。

奥間部長 県の方からご例示があり、8月の第2週をリフレッシュ休暇やウィークという形、そこで教職員は年休が取りやすいようにということ。それと、水・木・金は閉庁日という形で学校は開けませんよと。その代わりに何か緊急の場合は教育委員会に電話をしてくださいという、休みやすい環境づくりを今年から取り入れていくという形で考えています。

本仲委員 とても良いですね。これも是非、是非、実行してください。

田端教育長 よろしいでしょうか。ほかにありますでしょうか。よろしいですね。それでは、ほかに、ご質問がないということでもありますので、報告1「令和元年度教育行政マネジメントシステムに係るマネジメント一覧表について」は、終了したいと思います。

続きまして、報告2「第2次教育振興基本計画に係る組織目標について(文化財課関係分)」の説明をお願いいたします。比嘉市民文化部長、お願いします。

比嘉部長 ハイサイ。ご紹介いただきました市民文化部長比嘉でございます。よろしくお願いします。それでは、報告2「第2次教育振興基本計画に係る組織目標について(文化財課関係分)」、第2次教育振興基本計画の文化財課関係分の組織目標について、別紙のとおり報告する。令和元年6月25日提出。教育長 田端一正。報告理由 第2次教育振興基本計画の文化財課関係分の組織目標について、那覇市目標管理制度の書式を活用して報告する。説明につきましては、文化財課課長より行いたいと思います。よろしくお願いします。

田端教育長 末吉文化財課課長、お願いします。

末吉課長 文化財課の末吉です。よろしくお願いします。令和元年度の文化財課の組織目標について、第2次那覇市教育振興基本計画に関連する2つの組織目標について、ご説明いたします。お手元に配布いたしました資料でご説明いたします。市長部局では組織目標管理制度を導入しておりまして、お手元に配布いたしました資料は組織目標管理シートでございます。まず組織目標の1つ目、玉陵、識名園、歴史博物館、壺屋焼物博物館の入園・入館者の増でございます。達成水準は第5次那覇市総合計画の施策28「文化が保存され継承されるまちをつくる」の資料に合わせまして、基準年度であ

る平成28年度の入園・入館者数17万9,206人に、入園・入館者数の2%3,584人を加えた18万2,790人以上としております。昨年度、平成30年度の4施設の入園・入館者数の総数は18万1,416人で、目標達成には昨年度より1,374人以上の入園・入館者の増が必要となります。目標を達成するため、識名園、玉陵では、今年度も引き続き世界遺産解説会を開催するとともに、識名園友遊会など地域と連携したイベントに取り組んでまいります。また、両博物館では、常設展、企画展の内容の充実を図り、ギャラリートーク開催等の取り組みを行います。次に、組織目標の2つ目、収蔵庫の確保及び在り方の検討でございます。最初に、現在の収蔵庫の状況をご説明いたします。収蔵庫とは埋蔵文化財発掘調査で、出土した遺物を保管する倉庫のこととございまして、文化財課で管理している収蔵庫は、南風原、仲井真、とまりんの3ヶ所でございます。そのうち、仲井真中学校に隣接する仲井真収蔵庫、プレハブの収蔵庫でございますけれども、第1種住居専用地域に位置しておりまして、収蔵庫として使用出来ないことから、今年度中に仲井真収蔵庫を撤去いたしまして、収蔵している遺物を南風原に所在するエコマール那覇プラザ棟に移す予定で、現在、作業を進めております。達成水準について、昨年度設置いたしました、企画調整課、財政課など、関係課の職員を構成員とするワーキンググループにおいて、那覇市民会館に一時的に収蔵している遺物の移転先について検討を進めるとともに、将来の埋蔵文化財センターの建設に向けまして、施設規模等の検討を行い、基本的な考え方を整理したいと考えています。以上、令和元年度の文化財課の組織目標でございます。よろしく申し上げます。

田端教育長 ありがとうございます。この件について、ご意見、ご質問等ありましたらお願いしたいと思います。平良委員、どうぞ。

平良委員 収蔵というか、遺物というのは、どんどん増えていくばかりだと思うんですよ。前の物を廃棄することがないので。そうすると、大体どれ位のペースで、どれ位のコンテナというんですか、どれ位の大きさの物が増えていくとか、そういうような見通しはありますか。

田端教育長 どうでしょうか。

内間副参事 お答えします。最近調べてはいないんですが、大体、発掘調査を1件行いますと、約100近くのコンテナが出てくる。これは遺跡にもよりますが。現在はできるだけ必要な物だけを拾っていくということで、できるだけ減らすということを考えておりますが、今、平良委員がおっしゃったように、増える方向でみているという傾向にあります。現在、県とも話をしまして、これまであった物をどうにかできないかということで、検討するということでやらないといけないのではないかとということで提案がいろいろ出ております。現在のコンテナ数ですが、総数でいくと約1万8,000箱になります。市民会館にありますのが約1,000箱余りですね。それから、とまり

んの方に約700箱。安謝小学校の方で約2,500箱。現在あります仲井真の方に2,000箱。南風原の倉庫で約3,700箱ございます。その中で、市民会館の遺物の移転先をこれから検討するということになります。

平良委員 ありがとうございます。

田端教育長 よろしいでしょうか。大丈夫ですか。本仲委員、どうぞ。

本仲委員 この資料で埋蔵文化財センター（仮称）とありますが、建設に向けての見通しがあれば教えていただけますか。例えば、いつまでに、予定地、選定についてなどを具体的に。

田端教育長 お願いします。

末吉課長 先ほど、平良委員からもご質問がありました、遺物の収蔵については、第5次総合計画にも課題としてあがっています。埋蔵文化財センターは、現在のところ白紙でございますけれども、必要性については重々認識をしておりますので、検討をワーキンググループで積み重ねて、具体化できるように取り組んで参りたいと考えております。

本仲委員 この用地選定に向けても、大体、候補地が、何ヶ所あるんですか。

末吉課長 建設用地については、新都心の開発の時に、建設用地が具体的に実施計画に計上しましたけれども、それが計画に変更等々がございまして、現在、用地の確保の用途はございません。

田端教育長 よろしいでしょうか。ほかにありますでしょうか。喜屋武委員、どうぞ。

喜屋武委員 入園・入館者数はもう少しで達成できるので、難しい数字ではないと思うんですね。今、沖縄県へ999万人の観光客がきていて、1,000万人近いんですが、那覇市の識名園や世界遺産に訪ねてくる方がもっと増えると思うので、活性化のひとつとして、毎回、同じ事を言って申し訳ないのですが、公休日を開館する工夫であったり、ナイトエコノミーというのが世界的にも主流になってきて、今年から商工農水課が「なはでナイト」という、ナイトエコノミーの検証事業を始めます。牧志駅前ほしぞら公民館も含めて、夜の6時から9時、10時位までの観光客、特に那覇は夜に来ることが多いので、ナイトミュージアムなどの新規の企画をしていただいて、20%も那覇の美術館にきていない数字を見たときに、もっともっと来ていただけると思うので、是非、ご検討をいただければと思います。お願いします。

田端教育長 ご検討のお願いでございます。よろしくお願ひしたいと思います。是非、この目標が達成できますように、皆で頑張っていきたいと思います。ほかに、ご質問がないということですので、報告2「第2次教育振興基本計画に係る組織目標について（文化財課関係分）」は、終了したいと思います。

 続きまして、議案第11号「那覇市教育事務点検評価委員会への諮問について」を議題といたします。山内生涯学習部長、お願いします。

山内部長 議案第11号「那覇市教育事務点検評価委員会への諮問について」、那覇市教育事

務点検評価委員会に別紙のとおり諮問する。令和元年6月25日提出。教育長 田端一正。提案理由 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について、那覇市教育事務点検評価委員会に諮問するため、この案を提出する。内容については総務課で説明をいたします。

田端教育長 仲程総務課長、お願いします。

仲程課長 今回の資料のページをひっくり返しまして、諮問文になります。平成30年度事業の点検評価について、那覇市教育事務点検評価委員会の委員長崎原永輝様へ提出するものでございます。「記」の下、対象事業は次に掲げる事業としますということで、この16事業について評価をしてもらうということになります。それでは、続きまして、別冊のちょっと厚めの「令和元年度教育事務点検評価対象事業」というものをご覧になってください。これは、各課が作成しました評価シートなどを綴ってございますけれども、内部評価が記載されています。1ページ目は、その一覧表でございます。事業名、主管課名がありまして、右側の方に妥当性、効率性、有効性、総合評価、今後の展開という項目が並んでおります。入力されている数字につきましては、アルファベットとそれぞれ主管課からの内部評価になります。評価された基準について、別添の資料をつけてございます。「教育事務点検評価の妥当性・効率性・有効性の配点判断基準」という資料を配布してございます。評価は、妥当性・効率性・有効性の3つの観点から行いますけれども、それぞれ5点が最高ということで、満点は合計で15点ということになります。それから、総合評価については、この資料の3ページ目の方にございますけれども、15点、若しくは14点はA評価となります。13点から11点でB評価、10点から8点でC評価というように、点数によりA・B・C・D・Eの5段階で評価をしていきます。今回の内部評価の結果は対象事業16事業のうち、A評価が5事業、B評価が11事業となっております。今後の展開の内容においては、対象事業に対する今後の方向性などを示して入れております。2ページ目以降については、各課の評価シートが記載されておりますのでご覧になってください。今後のスケジュールは、7月中旬までに評価委員会による各課ヒアリングを行います。下旬には、そのヒアリングを受けまして評価の検討を行います。そして、8月上旬には評価委員会から各課に対しまして評価結果とその考え方を説明する報告会を行いまして、その後、答申書をまとめまして、教育長へ答申書を手交するということとなります。説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

田端教育長 ありがとうございます。この件について、ご意見、ご質問がありましたらお願いしたいと思います。本仲委員、お願いします。

本仲委員 今回、委員長は崎原永輝先生がなられたわけですね。評価委員のメンバーを知りたいのですが。

仲程課長 まず、崎原永輝先生が今年度委員長になりました。土屋由美子委員是那覇市こど

も政策審議会委員をやっている方です。それから伊波就子委員ですね。この方も那覇市子ども政策審議会委員をやっておられます。それから我那覇生治委員は首里公民館利用団体連絡協議会会長でおられます。最後に池原武先生は元学校長です。5名の委員となっております。

田端教育長 よろしいでしょうか。ほかにありますでしょうか。どうぞ、平良委員。

平良委員 この中で15番の那覇市健康ウォーキング推進事業、ひとつだけ「拡充」という総合評価になっていますが、この30ページを見ると、市民への啓発活動をもう少し広くしていくという形の拡充になっているのでしょうか。

田端教育長 山内生涯学習部長、どうぞ。

山内部長 これは主管課が内部評価して、自分達はこう考えているということで、主管課の判断はそういうことであります。5,000名を目標に、毎年少しずつ近づいていますが、まだまだこの目標に達していないという意味も込めて、また、ウォーキングだけではなく、ウォーキング教室で歩く楽しさを知ってもらおうと、そういう意味での拡充ということだと思います。

平良委員 わかりました。

田端教育長 よろしいでしょうか。ほかにありますでしょうか。本仲委員、どうぞ。

本仲委員 これに関連して。私も2回か3回出場して、大変良い取り組みだなと思うんだけど。ただ、どんどん増えていく、増えていけば増えていくほど、いわゆる危険度が増していく。これは警察、那覇署あたりからの指導がないのかどうか。それから、どこまで増やせば良いのか。定着していますよね。もう割と那覇市民は知っているのも、このあたりまでやれば大体良いんじゃないかなと思うので。危険度との関係はどうですかね。

田端教育長 山内生涯学習部長、お願いします。

山内部長 1点目、警察からの指導、そういうものはまだございません。2点目、増え過ぎたら増え過ぎたで運営に支障をきたしますので、今でも少し多いということで、最初から信号待ちで混雑するという話がございます。今、8コースありますが、もう少しコースを減らすのか、いろいろ工夫を凝らして改善していきたいということでございます。昨年度は、交差点や信号待ちで混雑している、コースが交差するところどこに行ってもいいのかわからなくなったという苦情がございました。課題を整理して、改善していかないといけないと思っています。

本仲委員 そうですね。今、回答があったように、那覇署からの指導はないのかなという感じはしました。20キロコースに参加しましたが、最初は一斉に出ていくんだけど、信号で全部止められるので、適当に分かれていくんですよ。交差するところでは渋滞があるのかもしれないけど、国際通りまで行くと、誰が誰だかわからないくらい離れている。ただ、最後尾がかなり遅く運営は大変だろうなという感じがするので、行き

着くところはどこまでなのか。やっぱりこういうラインというのは持っていた方がいいのではないかと思います。

田端教育長 よろしいでしょうか。拡充ということでもありますので、教育委員のお二人から質問があったように、適正な大会が出来るように、私達、頑張っていきたいなと思っています。ほかに、ご意見、ご質問ありませんでしょうか。那覇市教育事務点検評価委員の方にしっかり評価をしていただくということで、お願いしていきたいと思います。それでは、ほかにご質問がないということでもありますので、議案第11号「那覇市教育事務点検評価委員会への諮問について」は、原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

全員 異議なし。

田端教育長 ありがとうございます。議案第11号「那覇市教育事務点検評価委員会への諮問について」は、議決いたしました。

それでは以上を持ちまして、令和元年度第6回教育委員会会議（定例会）を終了いたします。

案件の審議結果

議案第11号	那覇市教育事務点検評価委員会への諮問について	原案どおり可決
--------	------------------------	---------